外国出張報告書

平成 26 年 8 月 20 日

1. 出張国名　　ブルキナファソ

2. 出 張 月　　平成 26 年　7 ～ 8 月

3. 出張目的　　再生可能エネルギーに係る活動計画の作成のための現地調査及び情報収集：A

4. 成果の概要

太陽光を利用したランタンの導入に係る現地調査及び情報収集として、ランタンの市場調査および無電化地域におけるランタンの利用状況調査を実施した。
調査の結果、乾電池式 LED ランタンが普及し、伝統的な灯油式ランタンは販売、利用されていなかった。
この結果から、CDM プロジェクトを活用したソーラー式 LED ランタンの普及可能性を検討したところ、既存技術が乾電池式 LED ランタンの場合、CDM 方法論に基づく排出削減量の算定では、プロジェクト期間中の削減量が 0.035 tCO_2/台と非常に小さく、CDM プロジェクトによるクレジット売却収入は見込めず、ソーラー式 LED ランタンの普及促進は難しいことが分かった。
太陽光を利用した灌漑ポンプの導入に係る現地調査及び情報収集として、ゲスナ村住民の問題解決に貢献する活動計画（乾季における市場向け野菜栽培）を促進するために、乾季において利用可能な水源を調査検討した。
調査の結果、表流水については、ゲスナ村北部のサルガ村ダム湖の利用およびその下流域でのため池形成の可能性は確認された。しかし、地理的に水利用が不便であること、灌漑施設設計にあたって調査検討項目が多く、本調査での対応が困難であると考えられた。一方、地下水については、ゲスナ村水利用組合との協議の結果、集落近郊にある既設深井戸の利用が可能であることが分かった。
ただし、深井戸は飲料水用として主に利用されているため、現況可能揚水量を把握した上で利用の可否を判断する必要がある。